

ゼオノマール2×14 → セオノマール錠(10)2錠2×朝夕食後

セルタッチ4パック → 6枚入りか、7枚入りか

ペンニードル70本 → 30Gか、31Gか

カルナクリン(25) → 実際は カリクレイン(10)

・シンメトレル100mg朝夕食後 → シンメトレル錠(50mg)100mg

・ザルゾラ錠 → ザイロリック錠

ノボリンR注のところノボリンU注記載。照会して訂正。

ムコダイン(誤) ムコスタ(正)

セフゾン 3C セフゾンカプセル100mg

レフトーゼ 3T / 分3 → レフトーゼ錠30mg / 分3

ムコダイン錠処方での250mg or 500mg

セルテクト錠 1錠 → セルテクトドライシロップ 1g

ソランタール錠 1錠 分1 → リンデロン錠(0.5)1錠 分1

・6才男児 アスベリンドライシロップ0.4g分3毎食後 の処方。

投与量少ないため、問い合わせ。アスベリン散0.4gに変更。

・処方箋前回処方印字のため、入力時ノルバスク2.5mg錠→ノルバデックスと間違っ て入力されそ のまま訂正なしに処方。問い合わせにより、ノルバスク2.5mg錠に変更。

ロコイド軟膏 → ロコイドクリーム

シプロキササン → シプロキササン100mg

メバロチン5mg → 10mg

ビオフェルミンR → ビオフェルミン

アルマール → アマリール

アマリール → アルマール

ムコソルバン → ムコスタ

一般名 フルニトラゼパム → レスタス(フルトプラゼパム)

患者さんの希望はアダラートCR20mgであったが、アダラート20mgと記載されていた。

ex. ロヒブノール2mgと記載

前回処方と比較して、ロヒブノール1mgではないかと照会。(患者は特に変更を希望したことはない との解答の為。)結果、ロヒブノール1mgと判明。

なし

ピーエイ錠 → PL顆粒

メジコン錠 → メジコンシロップ

ロペミンCap → ロペミン小児用

ムコソルバン → ムコスタ錠

バップフォー・ → バップフォー(10) 2錠

アンダーム軟膏(誤) → アンテベート軟膏(正)

リボトリール(誤) → リピトール(正)

プレドニン(誤) → プレドニゾロン(正) 等

ニコチンパッチ → ニコチネルTTS

モビフート2本(誤) → モビラート軟膏50g(正)

- ・ジルテック 10mg が記載されていた。正しいのは、ジスロマック。
- ・アルデシンが記載されていた。正しいのは、アルデシン AQ ネーザル。
- ・ポボン S が処方されていたが経過措置品目の為中止になる。

ディオバン 20mg 1錠 → デイオバン 40mg 半錠

ラデン 2丈 → セルベックス cap 2丈

チアトン (5) 5回分屯 → コサイチル 3.0 食後 5日間

ヒルドイド軟膏 20g → ヒルドイド 20g 1本

ヒルドイドはクリームなので軟膏と書かれていたのでヒルドイドソフトなのか疑義。

アパミン 10mg → ニューレブチル 10mg に訂正

トラザミン 15mg → トレドミン 15mg に訂正

シンレスタール → シンメトレル

テオドール (200) → オラドール S

アムロジン 25mg アムロジン 2.5mg

ラシックス 50mg ラシックス 20mg

フロモックス細粒 3mg → フロモックス錠 (100) 3錠

サンリズム 50mg 6T → サンリズム 25mg 6錠

アブレース 1.5 とあり、細粒なのか錠剤なのか・塩からないため確認したところ、アブレース細粒 20% 1.5g でありました。

本草乙字湯 → 本草猪苓湯エキス顆粒

KTS 釣藤散 → ツムラ柴苓湯 ) ゴム印の押し間違いなど

シンメトレルとタミフルを重複投与

パドリン パナルジン

アレロック アロテック

ホスミシン DS ホクナリン DS

バファリン 81 バファリン 330

ノルバスク 0.5mg → ノルバスク錠 5mg

カロナール D.S → カロナール細粒

ブレドニゾロン眼軟膏 6g (誤) → ブレドニゾロン錠 6T (正)

メイラックス 1T → メイラックス (1mg) 1T

ドラール 1T → ドラール (15mg) 1T

ガチフロ 4T → ガチフロ (100mg) 4T

ノボレット R 2本 → ノボレット R (150単位) 2本

カフコデ錠 → カフコデ N

ペンフィル N 注 → ペンフィル R 注

モーラス 14枚 → モーラステープ 14枚

ムコソルバン錠 → ムコソルバンシロップ

ヒューマカート 3/7 注 → ヒューマカート 3/7 キット

フルタイドロタディス → フルタイドディスカス

フロモックス 3T → フロモックス (100) 3T

セフゾン 3T セフゾン (100) 3C

ソルニラート 3C → ソルニラート (50) 3T  
 ・カリセラム → カリセラム Na 末  
 ・フラベリック (10) (10mg は規格なし) → フラベリック (20)  
 ヒルドイド → ヒルドイドソフト (正)  
 プレラン → オドリック (正)  
 アストミン → アスベリン (正)  
 アスベリン散 → アスベリン D.S (正)  
 カルデナリン 1mg      カルスロット 20mg  
 ミノマイシン 100 → ミノマイシン錠 100mg  
 ノルバスク (5) → ノパロック (5)  
 ガスター → ガスター D 錠 20mg  
 アダラート → アダラート L(10)錠  
 プロマック顆粒 → プロモックス小児用細粒 (正)

## 参考資料 2 薬名の記載に関して困った点

酸化マグネシウムを「カマ」と記入してくる。

規格もれの頻度が高い。病院の採用が 1 規格のみの場合、初回疑義照会を行うが、2 回目以降ももれている事が多い。

mg 数の書かれていないものが多い (特に手書きの時)

手書き処方箋が読めなかった。

- ・外用で、その剤形がクリームか軟膏かわからなかった。
- ・手書きで薬品の規格が不明な時がよくある。
- ・商品名なのか一般名なのか、わかりにくいことがある。→ フマル散 ケトチフェン 0.1% シロップ用 (Dr は一般名とのこと。商品も同じ名称である。)
- ・一般名の際の剤形指示がない。(散 or シロップ or 錠剤?)
- ・手書きの際に、インスリンの規格や単位、キッドなのかわかりにくい。  
インスリンの名称そのものも、間違いやすいので困る。

アストモリジン → M、D の記載なし。

ガスター、シンメトレル、ブルフェン etc → 用量記載なし。

疑義照会すると、その医療機関の採用薬に限るとのことので以後も記載されない。

似た名前、剤形が多すぎ。

カルテ → 処方せん入力時のまちがいが多い。

薬名に必ず 100 や 200 などが入ることによりかなり改善されると思う。

全くちがう作用の薬名が書かれている時。

薬歴の前々回分の薬名が書かれている時。

mg 数が記入されていない時。

手書き処方箋は楷書で記入していただきたい。(ご署名も含めて)

記載で読みとりにくいものが多い。(手書き処方)

手書きの処方箋に多いのが、規格が指示されていないこと。とくにインスリン注射の針のゲージが記載されていない。

規格が書いていない。

ゼロ品が多く在庫に困る。

手書きの処方箋で、文字の不明瞭なものがあり、又、Drによりカタカナ、アルファベットなどまぜてあり、見にくいものがある。

酸化マグネシウムを カマ で記載あり

手書き処方箋の場合、規格記入もれが多い。

手書き処方に関しては規格もれ多く、問い合わせにより患者の待ち時間が長くなる。

手書きの為、読みにくいし、確認しないと処方できないものが多い。

後発品名での記載による。

在庫なし、調達不可能品への変更願ひ。

多量包装品は うかつに買えない。

不良在庫の増加。

手書きの場合、” 剤形 ” が書かれてない場合がほとんどです。また、「フロモックス 3 T」としか記載されていなかったのが 疑義照会したところ、「10才なんだから75mgに決まってる。いちいち電話するな。」とおしかりを受けたこともあります。(某市立病院)

前回と薬が異なっている時 患者様が医師から話を聞いていない時、問い合わせるとまちがっていることがしばしばある。

代理の方がこられたとき、確認できないこともあるので不安である。

病院での採用品目がどうこうというのは 薬局では関係ない。アダラートとかかかれていれば うちの病院ではアダラートL20mgだとか言われる病院があり腹が立つ。

乱筆による判読不明の処方箋がしばしばくるが、非常に困る。

最近、似たような名前の薬で効果が全く違う薬が多いので、薬名が違えば大事になってしまいます。

コンピュータ入力する時は do 処方処で処理できるものが多いので大きな間違いはないと思いますが、手書きの場合は間違いやすいのではと思います。薬名をスタンプで押すときも注意がいます。

手書き処方箋 サワシリン錠250とカプセル250、カプセル125等規格が多いのに、サワシリン 3 分3×3日の処方箋記載があり、疑義照会した。

規格が書かれていないケースが多い

手書きで読みにくい。

手書きの場合判読が困難。

用法がない。

外用薬に指示がない。特に部位回数等。

この1月はなかったのですが、広域病院、時々しかこない医院などで、錠剤しかないのにカプセルになっていたりと、といった事がありました。

- ・規格が2種以上ある場合、明確に記載されていない。(常に使用されているもののみ書かれている)
- ・以前投与中止になった筈の薬品が再び処方されている。

手入力を受付の人がやっているのだから、カルテの転記ミスが多く、Drに問い合わせても “自分はそのこと書いていない” という反応をされる。

- ・手書きの処方箋に剤形の記載のないものが多い。
  - ・規格含量の記載のない為、問い合わせをすると、使用薬品リストを調べる様いわれてしまった。手書き追加商品名が判読困難な場合あり。又、医師名の場合もあり。
- 病院採用薬の同効品が別の商品名で書かれている。

エリスロマイシン 600mg 3T

↓

$$200\text{mg} \times 3\text{T} = 600\text{mg}$$

- ・規格の思い込みによる誤りが多い。
- ・採用薬の薬名をきちんと憶えていないためか、不備な記載がある。

存在しない規格が書かれているなど

医療機関の採用医薬品の薬品規格が一種類と思いこまれている。

### 参考資料3 疑義照会によって分量の記載違いが判明した例

タリビット点眼 5ml → 15ml へ

ラミシール錠 2T 1× 常用量超過のため照会 → 1T へ

タミフルDS 誤 0.9g/日 → 正 1.8g/日

体重換算で分量が少ないと判断し、疑義照会。

→ 1回あたりの量と1日あたりの量を誤っていたため処方訂正となる。

サワシリン 350g/日 → サワシリン 3.5g/日

おそらく 350mg ト書きたかったのだろう。

ハルシオン 0.125mg 1T → ハルシオン 0.125mg 半錠

メキシチール (50) 2cap 2× → 1cap 1×

ツムラ八味地黄丸 2.5g → 7.5g

カルデナリン (2) 4T → 2T

アズノール軟膏 50g → 5g 散剤や顆粒剤で包数だけしか書いていないので、1包が何gなのかとまどうことがある。

アレピアチン散 10% 2.5g 処方のところ 0.25g となっていた。

ポピロンガーグル 180本 → 1本

ポピロンガーグル 90本 → 90ml

・ダイアモックス (250) 1T      ダイアモックス (250) 2T

アスパラK 2T                      →    アスパラK 4T

2×1

2×1

・カタリンK点眼液 15ml → 15ml × 2ビン

・マイティア (人工涙液) 5ml × 4ビン → 5ml × 5ビン

ルリッド錠 3T 1日2回 朝夕食後

ハルシオン (0.25) 1T vds × 14TD → 2T

いつも 2T なのに 1T だったが、本人が説明をうけていないため確認すると 2T (do) だった。

・エビプロスタット 6T 分 3 (内科より)、エビプロスタット 3T 分 3 (泌尿器科より) 同時に処方あり確認とりました。

・スタデルムクリーム10g→20gに訂正。(用量でしょうか?)

・リボスチン点眼4ml→5ml

薬名忘れたが、カルテのDrの文字が判読しづらく、CP入力をまちがっていたことがある。

分量が異様に多く、剤形の違いがわかった。タミフルD.S→タミフルCP

ナウゼリンドライシロップ0.2g→2g

セフゾン細粒1.5g→3g

ジョサマイシンシロップ5cc→10cc

フスコデ3T→6T

ストロメクトール(3)4T→3T

リボスチン点眼液4ml→5ml

ケルナック1T→2C

小児科処方

アセトアミノフェン0.7g 頓服処方に対し常用量0.3~0.5gである為問い合わせる。アセトアミノフェン0.5g3回分(1日2回まで)に訂正となる。

リレンザ 6枚 1日2回吸入

↓

20ブリスター(5枚)

12才の患者、カロナール細粒0.35gの処方。

照会の結果、カロナール細粒1.75gに変更。

Drはアセトアミノフェンとしての用量で入力してしまったとのこと。

毎食後服用の指示で2錠投与

・メチエフ10倍散0.2g が 2gと間違えていた。

・ムコソルバンSy 10kgの子供に5mlで処方されていたので疑義照会したところ3mlに変更。

100倍散リン酸コデイン30mg 3×毎食後5TD

↓

100倍散リン酸コデイン 3g 3×毎食後5日分と確認。

コンピューターの入力まちがい。3錠→30錠だったりした。

カリーユニ点眼液5ml 22本 → 正しくは2本

10才男子 ムコダインSy 1.5ml → 15ml

・サワシリンカプセル(250mg)3錠 → サワシリンカプセル3Cap

・チアトンカプセル(10mg)3錠 → チアトンカプセル3Cap

・ドグマチール錠(50mg)20錠→ ドグマチール錠(50mg)2錠

スルピリン1g→0.9g。

スルピリンは1日量最大0.9gまでとなっているので照会、訂正される。

ソラナックス0.4 2T分2 → ソラナックス0.4 4T分2

タリオン 20T → タリオン 2T

子供の散剤の分量が体重あたりの換算で多すぎたり、少なすぎたりするため確認の照会

目薬の単位が 15ビン → 15ml

シロップ剤 2mg → 2ml

1日量3Tの薬が、33Tで処方されていた。

小児のD s yの量が10倍量出ている。

マルファ顆粒 3.6g分3で投薬されていたのが、昼服用分が残っていたので、分2処方となったが、

マルファ顆粒 1.8g分2と処方された。

患者が医師との会話では“いつもどおり”とのことだったのに、1日量が倍量に記載されていた。照会したら、コンピュータへの入力ミスであった。

アリメジン散1gと記載のあったものが疑義照会の結果、0.5となった。

ツムラ五苓散4.5g → ツムラ五苓散7.5g

ツムラ牛車腎気丸(2.5g包)5g/分3食前 → 7.5g/分3食前

ガストローム顆粒(1.5g包)2g/分2 → 3g/分2

ネオメルク(50) 2cap分2(誤) → 4cap分2(正)

オキサロール軟膏 100g(誤) → 50g(正) (5g×10本)

前のページ、モビラート軟膏のことです。

小児に対してオーグメンチン1日3.3gガ体重に対して超えているので1日3gに変更。

小児に対してBFR1日3gが体重に対してこえているので1日1.5gに変更。

マレイン酸クロルフェニラミン丈1%6g → 0.3

抗生剤 体重/kgの分量の間違い

ユベラ錠 1T → 3Tに訂正

プロチン液 分量不明 → プロチン液 10ml

単シロップ 分量不明 → 単シロップ 3ml

キョウニン水 分量不明 → キョウニン水 2ml

メゼック散 1.5g 分3 毎食後 → メゼック散1.2g 分3 毎食後

ノルバスク 5mg 3T → ノルバスク 5mg 1T

フルタイド(200) ロタディスク 28BL

1日2回 M2BL vds2BL 14日分

↓

フルタイド(200) ロタディスク56BL

1日2回 M2BL vds2BL 14日分

デパケンシロップ 1本120mlの記載

1回量の確認と服用回数の確認

アルサルミン錠 3錠 → 12錠

3才の子供にPL顆粒3gと処方。照会によりPL顆粒幼児用だった。

いつも3T3×( )毎食後、4T2×( )朝夕食後などである患者様で、服用量が変わっており、患者様も医師に聞いていないとのことで医師に確認したところ、記載違いでした。

屯 フスコデ 6T → フスコデ 2T

内服 チネラック 2T → チネラック 4T

タケプロン15mg → タケプロン30mgが正小数点のうちまちがえ ex. 6g(誤) → 0.6g(正)

実際例 シンメトレル細粒 1.5g → 15gなど

ロペミン小児用 5g → 0.5g

タリビッド眼軟膏3.0g(誤) → タリビッド眼軟膏3.5g(正)

1日3回、2錠となっていた。普段、半錠指示するDrだったので確認したところ、単なる記載ミスだったとのこと。

ツムラ清肺湯7.5g → ツムラ清肺湯9.0g (1包3.0gの為)

セルタッチ 21枚 → セルタッチ24枚 (1袋6枚の為)

ポリフル3P (1.2g) → ポリフル細粒1.8g (1Pは0.6g)

ホクナリンテープ (2mg) 1日1回1/2枚3日分 3枚

→ ホクナリンテープ (2mg) 2枚

アラセナA軟膏3g → 容器に入れるか規格のある2g、5gか

→規格のある2g

ハルシオン 7T 7回分

メイアクト小児用顆粒 350g → 350mg

メイアクト小児用顆粒 3.5g → 1.8g

(小児体重20kg)

セフゾン 3T セフゾン 3C

ソルニラート 3C → ソルニラート 3

抗生物質等 小児量でおかしいと思われる例

(PL小児用等 坐薬)

葛根湯7.5gであるところを2.5g

カロナール錠 (200) 4錠2× 5回分 → 1回2錠5回分 1日2錠迄

ペリアクチン100倍散 1.1→0.11

ムコダイン細粒50% 6.6→0.66

3×

3×

#### 参考資料4 分量に関して問題点等

点眼剤について5mlや1びんと単位が薬剤によって変わるので困る。統一できると楽である。

ヒート品のある散剤等で単位が記載されていない。成分量か製剤量かはっきりしない記載がある。

添付文書に「適宜増減」があると、どこまでがその範囲とみなされるか、判断に困る。

マイスリー (10) 2T → 28日分他の薬がでているため

ロヒプノール (2) 2T → 28日分他の薬がでているため

どちらも倍処方 実際は1回1T服用

問い合わせ時には、そのまま良いとの回答を得るが、再来時には前回問い合わせ時に指摘した量に変更されてくる。

時々 力価と混在した処方が発行される。

どちらかに極力統一してほしい。

散剤や顆粒剤で包数だけしか書いていないので、1包が何gなのかとまどうことがある。

ドライシロップは、成分量で書いてくる場合がある。

軟膏の混合で

マイザー軟膏2g

10%サリチル酸ワセリン2g すねに塗布

軟膏の分量があまりに少量なのでDrに照会した。結果、範囲がせまいので全量4gにてよいとの解答でした。

ml規格なのかgなのか、瓶なのかわかりにくいものが多い。

ローション・液 → デルモベートスカルプ、ラミシール液、

アンテベートローション・・・g

リンデロンVGローション、メンタックス液、

アスタット液・・・ml

目薬 → ヒアレイン0.1、サンコバ点眼液、FAD点眼液・・・瓶

シセプチン点眼液、リンデロン液、タリビッド点眼液・・・ml

主薬量と製剤量かはっきりしない時。

主薬量の際はmg数で記入して欲しい。

水剤や散剤の場合、明らかに疑わしい量(10倍量など)でないと、発見しにくい。

上記のように規格と力価がごちゃまぜになったものが多い。

抗生剤の入力でgと力価の入力間違いがあった。

頓服いたい時 ～ 日分(～回分ではない)

散剤(主に精神科、小児科)にて、分量の表記が成分量であるか秤量数量なのか判別不能なものが非常に多い。(特に国立金沢病院小児科で)

長期投与が増え、一部長期投与できない薬品の倍量処方があり困る。

ワイパックス(0.5)9錠 30日分(他の薬は90日)

メイラックス(1)2錠 28日分

精神科の処方の場合、用法が細かく、オーダーリングシステムでは詳細が入力できない事がある。

外用薬の薬価規格が商品によってちがうため、処方せん入力時にまちがいがおこることがあるようだ。

コールタイジン1ml → 1本の15ml など

漢方の場合メーカーによって分量が違うのでまちがえ易い事もあると思う。

外用剤(点眼etc)の%記載がもれていた。

例)フルメトロン 0.1 ?

0.02 ?

レギュラーユースについての記載はほとんど問題ないのですが、頓服の場合「3T 3×ndE 痛いとき 10日分」とか、本当に頓用とするのか 常用するのか判断に困る処方が多いです。

問2と同様 前回 do でない時、患者様が医師から聞いていない時、問い合わせると間違っていることがしばしばある。

手書きによる処方箋での医師の薬の分量の記載方法が違う人がいるので困っている。

分包品を～包といった記載や、軟膏～本といったもの。特に軟膏のチューブは複数規格があることが多い為、困る。

小児に出す場合 特に粉薬は体重によって違うので体重を聞いて確認していますが、量を超えている場合が時々あります。

印字処方箋でなく手書きの時 分量の記入もれが多い。

投与日数に規制があるものに関して、他の薬と服用日数と合わせるため 倍量でかかっていることがある。

印鑑のため写りが不鮮明になりやすい。

大人量を小児に投与されている場合とか。

特に手書き処方の場合 1回量か1日量かわからず、疑義照会しなくてはいけない場合がよくある。

適正外使用（1日の最大量を越えた使用）

1日量 or 全量がわからない。（外用）

処方日数が短いとわかりにくい。

常用量オーバーの場合 疑義すべきか。医師の特別な判断での処方か判別が困難やはり疑義すべきであるが 日常的によくあると判断がむずかしい。

・漢方薬2種処方の場合、甘草の量又はマオウが5g以上になる。

・湿布剤の過量投与

（90日処方で坐薬56ヶ又はモーラステープ112枚 etc）

向精神薬で過量処方を求められたケース

↑

疑義照会してもそのまま出すように言われた。

カロナル0.5g 屯×5回分（36才）

カロナル細粒（20%）0.5gですか？と疑義。

カロナル細粒500mg=2.5gと確認しました。

（小児科で0.5gと書く為、500mgとはわからず、そのまま0.5gで出す可能性がある為、ミリ数で記入してもらおう事にしました。）

・同薬品でカプセル、錠があるものが判断しづらい。（Drにしてみればどちらでも大したことないと思われがち。そのことでいちいち照会するのも困る。）

・常用量以上の投与がされている例が意外に多い。

セクターローション1本、リンデロンVG軟膏1本など

全量をgで記載されないことがある

## 参考資料5 疑義照会で用法の違いが判明した事例

点眼 左→右へ（Com入力のケアレスミス）

食前か食後

初回手書き、ベイスン（0.2）1T分1朝食前→2回目印字、ベイスン（0.2）1T分1朝食後

ルボックス（25）3T 誤3×→4T 正2×

ルボックスは通常分2で服用の薬なので疑義照会。（分量も変更となる）

メリスロン3T 寝る前→毎食後

キネダック 毎食後→毎食前

誤 リボトリール錠 1日1回 朝食後

正 リボトリール錠 1日1回 寝る前 など多種多様

サワシリン 6cap 3×→2×

クレメジン細粒服用→食間服用

- ・バファリン (81) 1T 1×1朝食後 → 1×1 1日おき朝食後
- ・プロマック顆粒15%1.0g 3×1毎食後 → 2×1朝夕食後  
(分包品が0.5g/包のため)

ミノマイシン Cap100mg 2cap 1日3回毎食後

プリンペラン 食後 (誤) → 食前 (正)

- ・リピトール (5) 1T 分1 夕食後 → 隔日がぬけていた。
- ・パスタロン20ソフト25g (手) → (足)に訂正。

ゲンタシン軟膏 → 1日2回ぬけていた。

- ・ベイスン (0.2) 3T毎食前 → 毎食直前

ムコスタ100 3T 分2朝夕食後

↓

分3毎食後 (正)

3T 2× → 問い合わせ 3T3×毎食後など。

2T 2× → 2T1× (薬の内容的に判断できた) チラーヂンS

ダイドロネル200mg 1T 寝る前

酸化マグネシウム0.5g 寝る前→夕食後に変更

\*ダイドロネルと酸化マグネシウム同時服用をさけるため。

- ・ミノマイシン錠 (100) 2T 2×7 朝昼食後

服用時点問い合わせる

ミノマイシン錠 (100) 2T 2×7 朝夕食後に訂正

- ・カネボウ芍薬甘草湯2P 2×14 朝夕食後

問い合わせる

カネボウ芍薬甘草湯2P 2×14 朝夕食前に訂正となる。

クラリシッド 6T 2× → 6T 3×

(例) クラリス (200) 2T 分3毎食後 (誤) → 分2朝夕食後 (正)

など入力ミスが5件。

ダイドロネル 1T朝食後 の記載。

照会により起床時服用に変更。

アルロイヤネーザル1回点鼻 → 4回点鼻

ナウゼリン、プリンペランSyが食後になっていたので疑義照会したところ食前に変更。

ホスミシン8T 4×N 5TD

↓

ホスミシン錠 (50) 8T 4×毎食後、寝る前5日分と確認。

手書きのため、分2とあったが朝食後と寝る前服用とのこと。

ザンタック (75) 2T/ 2×

チモプトール点眼 (0.5%) 5ml 右眼1日2回 → 実際には左眼

テルシガンエロゾル1日3回服用

- ・アイロミール1日3回発作時 → アイロミール発作時 (1日3回まで)

Rp. リンデロン (0.5) 3T 2× → 朝食後2T、夕食後1T

アレロック錠 (5mg) 3錠 分3 → 2錠 分2

Drが1日用量をまちがえたようでした。

ヒューマカート3/7注キット 朝12単位 夕10単位と処方箋に記載。

患者使用は朝10単位 夕8単位に変更。

Dr口頭では患者に指示するが、処方箋訂正せずそのまま処方。

・タミフル 2Cap 3日分 用法不明 → 分2 朝夕食後

・セフゾンCap 分3毎食前 → 50mgであることの確認

用法が全く記載されていなかった。

頓服の用法が記載されていない。

外用薬の部位、用法が記載されていない。

コンスタン0.4mg 3T 分1朝食後

↓

コンスタン0.4mg 3T 分3毎食後

不眠時と記載（ソラナックスに関して）。疑義照会の上、不安時と判明。

1日2錠なのに、分3毎食後と記載されていた。

照会したら、分2の記載違いであった。

他の薬剤が全部14日処方なのに、1剤だけ1日だった。

オイグルコン 0.5T 分1食後 → オイグルコン 0.5T 分1食前

どちらも服用可であるが、この患者はずっと食前で服用していた為確認

食後 食前の確認

漢方剤については食間服用を指導しますが、医師よりコンプライアンス向上のため 食後の服用指示があるが、レセプト請求時に変更している。

フォサマック 朝食後（誤）→朝食前（正）

クラリチン 就寝前（誤）→夕食後（正） 等

ジスロマック小児用細粒 2g 4日分

朝夕食後

・クラリチン1T分1眠前→クラリチン1T分1夕食後に変更

・クラビット100mg 1日2T分1眠前→クラビット100mg 1日2T分2朝夕食後に変更

レンドルミン朝食後→寝る前

ラクティオンパップの部位頭部→肩

・リレンザ5mg 12プリスター

分2 朝夕食後 →1日2回 1回2BL

・ボナロン5mg 1錠

1日1回（朝食後）→1日1回 起床時

ブスコパン 10mg 腰痛時→腹痛時に訂正

リスパダール内用液1ml→夕食後

用法記載なし

一日おき → 毎日

毎日 → 一日おき

ダンリッチ 2C 1×vds→2×M.A